

市長定例記者会見 ２００９年８月１１日

- ・ 日 時 平成２１年８月１１日（火）午前１１時００分～
- ・ 場 所 本館３階第１会議室
- ・ 記者数 １５人

議題 「サンシャインレース松山」の開催について

（市長）

それでは今日の会見では、８月に行われます「サンシャインレース松山」の開催について説明をさせていただきたいと思います。松山市は、雨が少なく、日照時間が長いという地域特有の気候を最大限に生かした独自のまちづくり策である「松山サンシャインプロジェクト」により、太陽光発電の導入拡大とソーラー関連産業の振興を積極的に推進しているところでございます。今回、太陽光発電のさらなる普及拡大策の一環といたしまして、太陽エネルギーがあふれるソーラーシティ松山のイメージ発信を目的とした、全国で初めてとなるソーラーラジコンカーによる耐久レース「サンシャインレース松山」を８月２０日木曜日に松山中央公園多目的競技場、であいフィールドの自転車用コースを使って開催いたします。本レースの開催にあたりましては、全国から参加チームの募集を行い、北は新潟県柏崎市から、南は高知県南国市まで、全２２チームから申し込みいただき、高校生部門では、地元松山工業高校をはじめとする１４チーム、一般部門では、愛媛大学をはじめとする８チームで競技を行ってまいります。また、同時開催イベントとして、親子で新エネルギーについて学ぶ親子工作教室、グリーン電力証書を活用したビジネスについて語るビジネスサロン、クリーンエネルギー自動車の試乗会などを開催するほか、経済産業省資源エネルギー庁の「グリーン・エネルギー・キャラバン」とのタイアップ事業として、小学生から高校生を対象にグリーン電力をお題とした俳句・川柳の募集や、中央商店街をフィールドとしたクイズラリーなども開催しております。

詳細につきましては、担当のほうから説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

（質問）

物産展のグチ天とはどういうものなのか。

（市長）

グチという魚を知っていますか。

(質問)

練りものとかなのか。

(市長)

グチは、深いところに生息する魚です。例えば瀬戸内海の船釣りでは、深いところから一気に釣り上げるので、浮袋が口から一気に出てしまうような魚です。1日置いたらちょっと食べられないのですが、ただ釣ってすぐなら刺身でもおいしいし味わいのある魚です。これは、中島の方が考えたのですが、味は悪くないので、おいしく食べられる方法はないかということで、それをすり身にして、じゃこ天風にしたのがグチ天です。

(質問)

最近か。

(市長)

3年ぐらい前です。中島の有志の方が企画した商品です。

(記者)

このようなソーラーカーレースは、他にあるのか。

(市長)

先ほど申し上げたようなソーラーカーレースは初めてです。

(質問)

今朝、静岡県沖で大規模な震度6弱の地震が発生したが、近年、松山市や愛媛県も現実問題として大規模地震が予想されている。改めて今後の防災対策を伺いたい。

(市長)

これは起こらなければそれに越したことはないのですが、自治体の構えとしては起こるということを前提に常日頃から災害対策、それから実態のある訓練と図上訓練があり、それを今この時点でも日々積み重ねてきているところでございます。特に大震災につきましては、われわれが一番こだわってきたのが、新潟県中越沖地震であるとか、災害が起きたときに、実際に消防あるいは保健所から職員を派遣し応援を行うと同時に、いろいろな現場の体験も踏まえて、そのときに経験したことをわれわれの防災訓練にも生かしていくということをこれまでも行ってまいりました。その結果として連絡体制の問題や防災マニュアルの作成、そして何よりも一番感じたのが、大規模災害が起きたときの初動体制ですが、消防局・消防団の限られた人員では、すべての現場に駆けつけることは当然できないわけでありまして。いずれの場所におきましても、初動体制におけるところの対応というのは、隣近所の助け合いであったということが判明しております。ですから、そのことを踏まえて、ここ数年は自主防災組織の整備を市民に呼び掛けて、市民の皆さんもそれに答える形で、現在組織結成率が99.9パーセントまで達成することができました。同時にこれも全国で初めての取り組みで

したが、「仏作って魂入れず」ということになってはならないということで、防災士の資格取得者を各自主防災組織に配置したらどうかということで、その資格取得費用を全額公費助成ということに踏み切りまして、現在まで約500名、今年度も約400名の研修を行う予定にしております。おそらく人口一人当たりの防災士の数は全国でトップクラスになってきていると思いますが、そうしたところにも力を入れてきたつもりでございます。いずれにいたしましても、常に起こるという前提で、これからも緊張感を持って、いざというとき、もし何かあったときに備えられるように全力を尽くしていきたいと思っております。

(質問)

今朝の静岡での地震もそうだが、例えば応援の職員を派遣することもあるのか。

(市長)

これは地元からの要請を待たなければいけません。ボランティアも含めて、皆さん気持ちはいっぱい持たれていると思いますが、地元の受け入れ態勢がしっかりしないとかえって混乱を招くことになりますので、救援物資であるとか、人員の派遣というのはあくまでも地元の対応が優先されますので、その要請に従って、もし要請があれば速やかに行うということで考えています。

(質問)

もし要請あれば、救援物資あるいは応援の職員を派遣することも視野に入れているのか。

(市長)

はい。新潟県中越沖地震の時は、救援物資が全国から2日間ぐらいの間に一気に寄せられて、その保管場所がなくなってしまったようです。それともう1つは、本当に必要なものが届かなくて、間に合っているものが次から次へと届いたようです。ですから、やはり地域からの要請というものを最重視したほうがいいのではないかと思います。

(質問)

最近、激しい雨が断続的に降ることが多く、土砂崩れとかも起こっているようだが、それに対して特別な対応策はあるのか。

(市長)

松山市では、平成13年の集中豪雨によりかなりの浸水被害が出ました。非常に費用がかかることなので、一足飛びに整備はできませんが、その時点で当時の浸水に耐えうる体制を早く整えようということで計画したのが、今順次完成をみているポンプ場の建設です。去年も2カ所、新たに稼動開始しましたので、これもまだ全計画が終了していませんから、引き続きしっかりと排水体制を整備していくことが必要だと思っています。そのほかにかげ崩れの危険箇所のチェック、こちらも県との予算の関係もあるので一足飛びというわけにはいきませんが、順次進めています。それと集中豪雨が発生したときには、早い時期に災害警戒本部を設置し、パトロール等もきめ細かく行っておりますし、特にかがけ崩れの可能性のあ

る地域については、重点的に監視を強めて、いざというときに備えるということにしています。

（質問）

今回の豪雨の特徴として、短時間で一気に水かさが増したため、避難勧告する前に避難できない状況になったこともあり、今後の避難勧告の方法が問題になっているようだが、そのあたりの見直しは考えているのか。

（市長）

松山市はかなり早い時点で避難勧告を行います。当時も議論したのですが、避難勧告を出して、何事もなかったということで起こる非難は良しとしようと、むしろ、避難勧告が遅れることによって出てくる被害こそ恐れて、早めの避難というものについて起こってくるご批判というものは受け止めて、むしろ被害を最小限に抑える方を重視しようという考えでマニュアルを作成しています。

（質問）

今回夜間に避難勧告して、避難中に亡くなられた方もいるが、場合によっては自宅に居たほうが安全ではないかという指摘もある。このあたりの見直しは、どう考えているのか。

（市長）

今の時点では難しいので、もう少し分析させてください。避難勧告のタイミングもまだ検証されていませんから、これも含めた上での話になると思います。

（質問）

首長連合の話になるが、今日首長連合によるマニフェストの見解を表明することとなっている。全国知事会も採点結果を出したが、今現段階での市長としての見解、気持ちを伺いたい。

（市長）

まず少し振り返ってみますと、6月の時点で地方分権というものが10年以上に渡って必要性を叫ばれ続けてきたにもかかわらず、遅々として進まない現象というものに対する意識が一つあり、途中段階で出てきた答えが三位一体改革です。この改革に対する趣旨は賛同できるものの、結果についての不満というものが、地方には蔓延しているという実態も一つ考えたことでございます。そしてまた、地方分権というものが単に国と地方の綱引き合戦ではなくて、国と地方の役割分担、もっと言えば国の形を考える大胆な改革であり、そのことが進むことによって、教育、福祉、地域基盤整理、あらゆる分野においてその地域事情に見合った政策が、スピーディーに展開できる。そしてまた、より身近なところに予算のお金が行き届くことによって、住民監視も厳しくなることで、無駄遣いも廃せるというもろもろの考えを総合的に受け止める中で、首長連合の立ち上げを決意いたしました。その段階では、リスクを負うことが一つのポイントだったと思いますが、リスクを負ってまでというご意見

が多かった中で、少数とはいえそれがあったからこそ、本当にマスコミの皆さんに取り上げていただくことになったのかなと思っております。そのことがなかったらわれわれの行動なんていうのは犬の遠吠えみたいなもので、大きなインパクトを与えることにはならなかったのではないかなと思っておりますので、この点は感謝をしています。それが本当にささやかな刺激剤になったぐらいの話かもしれませんが、その後の全国知事会の行動につながり、全国知事会が点数の公表、公開討論会の実施という行動に踏み切ったのは、本当に最初想定もしていなかった出来事で、その行為に対しては心からの敬意を表したいと思っています。さらにその後、政令指定都市の市長会も同じく点数を公表するということに踏み切ることにつながりました。全国知事会の点数・評価につきましては、先般公表されたとおりでございます。政令指定都市の方は今日の午後2時に公表される予定だそうでございます。ただ全国知事会の討論会には、わたしも出席をさせていただきました。マニフェストの字面だけでは見えなかったものが、公開討論会の席上に身を置いて見えてきたような思いがいたしました。それは何かといいますと、各党の政策責任者の発言を通じて伝わってくる覚悟、それから字面では見えなかった本意、そうしたところが討論会を通じて見えたということであります。この討論会のときは何とか発言の時間をいただきまして、本当にこれはいいことで見えなかったものが見えましたということも言わせていただきました。だからこそ積極的に影響を与えるような話ですから、公平性というものを打ち出されたほうが、さらに信頼度は上がるのではないのでしょうかという発言をさせていただきましたが、心配だったのは、報道によると討論会の前に採点を終えている方もいらっしゃるということ。またもう一つは当日、評価される知事の三分の一の出席しかなかったので、この討論会をどう採点に評価するのか、採点に評価されたのかというのをぜひ打ち出されたいかがでしようかという発言もさせていただきました。それは事前に採点を提出された方が何人いて、討論会から公表まで1日しかありませんでしたから、その限られた短時間の中で、討論会の生々しい空気をどう情報としてフィードバックされるのか、欠席された方にフィードバックされるのか、そしてまたそれを見てすでに点数を出された方がどれだけ修正をされたのかということをはっきりさせることによって、さらに信頼度は高まるのではないのでしょうかというお話をさせていただきました。もう一つ申し上げれば、名前を出すのは難しいのですが、積極的に第三者に分析をしていただくという姿勢を示すために、個々の採点票を出されたいかがでしようかというお話もさせていただいたのですが、そのことについてどれだけ答えていただけるのかというのはまだこの時点では見えていません。いずれにしてもこのような中で、採点が出ました。今日の午後2時には、政令指定都市の市長会の採点も出ます。それを受けて、首長連合は3時間という短い時間の中、大体今までの流れの中で意見集約というのは行っているのですが、あくまでもそうしたものを総合的にトータルに判断して、午後5時までに電話やメールでやり取りしながら、ステートメントの仕上げ作業に入っていきたいと思っています。

(質問)

ホームページ上での発表、公表ということも言われていたが、ホームページはいつアップするのか。

（市長）

明日にでも載せられると思います。まだ技術的な問題が少しありますが、ホームページの準備はしています。また、個人のホームページには速やかに載せようかなと思っています。

（質問）

ということは、午後5時の段階ですぐにアップされるというものではないのか。

（市長）

午後5時に発表しますから、すぐにアップはないですね。

（質問）

午後5時にここで発表するのか。

（市長）

ここでは発表しません。わたしは以前にもお話をしたとおり、松山市長の仕事が第一で、空いている時間で連携しています。今日は松山まつりの初日ですから、わたしは松山市から出ることはできませんが、発表のタイミングは今日がベストだと思いますので、正式な発表については時間がある人にやっていただきます。

（質問）

他のメンバーか。

（市長）

はい。そこは大阪になります。

（質問）

大阪で発表するのか。

（市長）

はい。今日大阪に行けると言ったのが中田横浜市長、ですからテレビによく出る2人が代表して、正式な発表をしていただくという形をとろうと思っております。

（質問）

松山市長からの発表は無理ということか。

（市長）

無理です。ただそれは5人の集約した意見として、代表して2人から発表してもらうという形になります。

（質問）

松山まつりのイベント前に、何らかの取材には応じてもらえるのか。

（市長）

そうですね、できれば。文書はメールで来ますから、皆さんにいち早く渡したいと思います。

（質問）

やはりわれわれ松山の記者としては、市長に話を伺いたいのだが。

（市長）

かなり入魂、魂を込めた文章になっておりますので、それをお読みいただいて、趣旨をご理解いただけたらと思います。ただ言えることは、どちらにもいい点も足らざる点もありますから、それらも全部列挙します。こういうところは、例えば「A党はよかった。でもここは不満だ。B党はこういうところがよかった。ここは不満だ、でも1番のポイントはここだ」というところで、地方分権。一つぜひ知っておいていただきたいのは、わたしたちが決めたのは、地方分権と霞が関解体とガバナンスの問題、道州制の問題、この4つの総合評価です。そのうち、全国知事会の採点と政令指定都市市長会の採点は、地方分権です。ですからこれについては、以前にも申し上げたように尊重、参考にさせていただくと。それ以外のところはわれわれもマニフェストを精査しながら、判断するという形をとっていることをぜひお知りおきいただきたいと思います。

（質問）

では、これだからどうこういうわけではないのか。

（市長）

尊重します。

（質問）

今言われた中で、地方分権、霞が関解体、ガバナンスとして、地方分権は全国知事会の方を尊重している。あとの3つは。

（市長）

全国知事会の採点と午後2時に発表する政令指定都市の市長会の採点を尊重します。

（質問）

尊重してその流れに沿ったものになるだろうが、そのほかの部分でどちらがということを明確にしてほしい。

（市長）

今の時点では申し上げられません。

(質問)

明確になってる部分でもかまわないが。

(市長)

明確な部分があります。はっきり申し上げて、どちらもすべてパーフェクトではないです。

(質問)

それぞれについて、どちらがというのは。

(市長)

指摘はします。でもトータルパッケージとして、わたしたち5人が地方分権推進のためにはどちらがより次なるステップへつながるかということで、上か下かというのは発表させていただきます。

(質問)

いわゆる政党を打ち出して、応援の仕方についてはいろいろ考えの違いがあるということと各自がばらつきがあり、今日、実際その政党というのはいずれにしろ出るわけだが、今後の応援の仕方について、市長はどう考えているのか。

(市長)

要は、われわれの能力などたかがしれていますから、今回その判断しているのは今申し上げたポイントだけです。ですから選挙にはそのほかにも外交安保もある、それから経済政策もある、いろいろな分野がありますから、そのステートメントの中でもそれははっきり表明しています。あくまでもこの分野に限っての評価、この分野についての判断基準の参考にしていただければという話であって、それ以外のことについてはそれぞれ皆さんが自らお考えいただいて、トータルで決められたらいいのではないのでしょうかというステートメントになっております。われわれはこの地方分権の推進ということについての応援ということですから、その点についての、応援ということについて申し上げれば、この結果を公表すること自体がもうすでに応援ということになるのではないかと考えています。具体的な選挙運動ということになりますと、これは個々の立場で要請頻度も違うでしょうし、それからいろいろな、例えばわたしは最初からこの行動を起こす前から、愛媛県内においてはどうするかというのは明確にしてきましたので、それを守るという立場であります。

(質問)

県内では活動しないのか。

(市長)

これに基づいた活動はしません。

(質問)

県外で何か考えているのか。

(市長)

要請があれば考えますが、ないでしょう。

(質問)

橋本大二郎元高知県知事の応援はするのか。

(市長)

応援します。それができなかつたら、わたしは人として生きていけません。

(質問)

声明について、先ほどの4つの指標で総合評価が出るということか。

(市長)

そうです。

(質問)

点数ではないということか。

(市長)

点数ではありません。ステートメントです。文章です。かなり長い文章になると思います。

(質問)

先ほどの応援の話に戻るが、市長は県内で活動しないということだが、例えば橋下大阪府知事や中田横浜市長が松山に来ることもあるのか。

(市長)

わたしにはわかりません。理論的にはあるかもしれないです。でもわたしはそれをいざなったり、コーディネートしたりすることはしません。

(質問)

今回、全国知事会などをはじめ、地方分権に関するマニフェストが各党に盛り込まれたが、首長連合が果たした動きについて、自己分析や自己評価はしたのか。

(市長)

これは逆に皆さんが分析していただいたらと思うのですが、先ほども申し上げたように、ささやかな刺激剤としての役割は果たせたかなというぐらいの気持ちはあります。実際に1カ月前の状態のときはかなり悩んだ末での決起だったのですが、1カ月前経つと当初のマニフェストには、考えられないまったく見えなかった文言が各党書き込まれるようになりま

したし、ある意味では先ほど申し上げたように本当に良い点、悪い点両方あります。ただ、何と申し上げたらいいのか、与党も野党もかなり地方分権に前向きな姿勢が明確になりましたので、そういう意味では政権がどうなろうとも、与野党協議がなされる中で、地方分権というのは進んでいく段階に入っていく土壌が整ったのではないかなという感触はあります。それはわれわれの行動が起こしたんだというおこがましいことは申し上げるつもりもありませんし、そうでもないと思います。ささやかな刺激剤という、そんな感じじゃないでしょうか。

（質問）

全国知事会の評価を尊重する上で、その公平さが非常に重要な役割とされていた。現時点でまだ見えていないという話だったが、その回答というか、その公平性についての回答のめどはあるのか。

（市長）

めどは、ないのではないですか。一応そのメンバーの中に首長連合のメンバーもあり、発言もかなり繰り返してくれているようですけど、なかなか難しいのではないですか。そこをどう判断するかは皆さんですから、わたしは逆に要請というよりも、こうされたほうがいいのではないのでしょうかという提案をしたつもりです。それをどうされるかは全国知事会のご判断で、ただそうしたほうが皆さんにとってもクリアになるのではないかなという感じは今でもしてます。

（質問）

松山まつりでの市長の審査員は何時までか。

（市長）

何時までだったか。

（質問）

話を聞くとすれば、その後か。

（市長）

そうです。松山まつりの審査ですが、場合によっては副市長に代わってもらうなど、対応を考えます。

（質問）

会見の案内は改めて出すのか。

（市長）

はい、会見はここでも。でも野球サンバはしっかり取材してください。

（質問）

横浜市での教科書採択で、さらに議論があったり、採択や一部採択になったが、本日松山市でも決まるようだが、横浜市での採択に関して何か見解はあるのか。

（市長）

見解は別にありません。松山市は教育委員会が決めることですから、わたしはタッチしていません。

（質問）

特にコメントはないのか。

（市長）

はい。ただ、わたしのところにもメールが来ましたが、異常ですね。県外、県内を問わず、たぶん学校の先生のグループだと思うのですが、脅しにも似た文章が舞い込んでいるというのは、はっきり申し上げて不思議で仕方がないです。国が決めた教科書の中から選ぶというのがわれわれの仕事ですから、それなのにこれを選択してはいけないとか、少し本当に強い口調の文章が舞い込んできていますので、これは異常だというふうに感じました。

（質問）

何通ぐらい届いているのか。

（市長）

何通か来ていました。それは教育委員会に聞いていただけたらと思います。